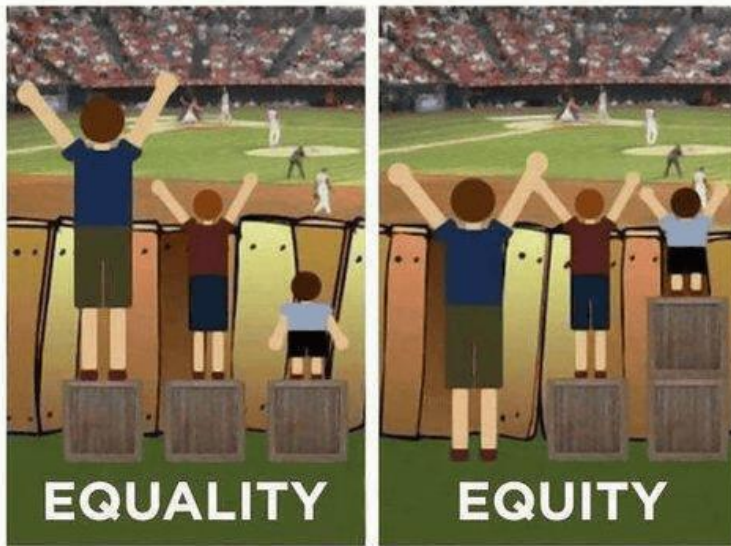


「宿題の量を決めました。」



EQUALITY は平等 EQUITY は公平・公正と訳されます。

左のイラストをよく見て下さい。同じように見えますが違いがあります。このイラストは特別支援教育の合理的配慮でよく見かけるイラストです。見て分かるように、身長が違う3人に対して同じ踏み台を用意してもハンデは解消されません。背の小さい子どもにも同じ条件で試合を見せるには相応の配慮が必要です。

平等とは何か、公平とは何かを考えてもらうための資料として使われます。同じ量、同じ支援を与えてそれで良しとすることは考え直さなければならないことを意味しています。

違う例として、給食で考えてみましょう。中学生の男子ともなると身長180cm体重70kgを超える大柄な生徒がいます。しかし、中には140cm前後の小柄な生徒もいます。この生徒たちにとって同じ量の給食は公平でしょうか？ 同じ量では前者は空腹を満たされず午後の授業や部活に支障が出るかもしれません。また後者にとっては量が多く給食に苦痛を感じることも予想されます。同じ給食費を支払っているからと言って同量は必ずしも公平とは言えないのではないのでしょうか。

もっと顕著な例は運動に関して言えます。能力に差がある生徒に同じトレーニングを課すと、全く効果の得られない生徒と逆効果で体を壊しかねない生徒も出てくるでしょう。当然、その生徒の能力に合わせたトレーニングが必要です。これは当たり前で疑う余地はありません。

しかしながら、学習に関して言えばその子の能力に合わせた課題や宿題を提示してきたかという、それは必ずしも提示してきたとは言えないのです。私の考えるその理由は、教師が、生徒の能力差を指摘し、格付けをしているように感じてしまうことの後ろめたさからきていると考えます。つまり、生徒に差をつけない。えこひいきをしない。平等に扱おうと思いやる気持ちが邪魔をしているのです。勉強が苦手な子に「君はここまででいいよ。」と言うことにより「どうせ僕は勉強でさんから言われるんやな。」と受け取られたくないという心理です。

次に、一人一人の能力を見極め、その能力に応じた課題を与え、提出させてチェックするというのが物理的、時間的に難しいことがあげられます。塾や家庭教師ならなんとかできますが多くの生徒を抱える公教育では実際不可能です。

では、どうすればよいのでしょうか。上中中学校では教師の間で次のように取り決めました。

裏面をご覧ください

最大100分 平均60分程度



宿題は各教科（５教科）２０分以内の量とします。つまり最大１００分、通常は６０分程度になると思います。ですから、宿題が多くて夜中までかかり、寝る時間が少なくなるということは今後ありません。もし、終わらないというのなら、始める時間が遅いのか、他に原因が考えられます。テレビや休息の時間を確保しても遅くても１１時には就寝できる量です。しかし、宿題を早く終えた生徒やまだまだ余裕のある生徒には自主学習として発展的な課題を与えます。与え方や内容は教科によって異なります。私の学生時代は英語は１日休むと取り戻すのに３日かかると言われ、毎日勉強しました。しかし、他の教科は２日に１回とか３日に１回とか自分で計画を立てて勉強したものです。ずいぶん昔の話ですが家庭学習の基本は変わらないはずです。

家庭学習の時間（長さ）は一概に決められません。受験を控えた３年生は多くなりますし、部活動の終了時間が異なる季節によっても変わってきます。そこで家庭学習を下の図のようにイメージしてほしいと思います。家庭学習を９０分する場合です。

A君	宿題90分										
Bさん	宿題60分							自主学習30分			
C君	宿題40分					自主学習50分					

A君は宿題だけで精一杯のため９０分をすべて宿題に費やします。Bさんは宿題が６０分で終わらせられるので３０分は自主学習に取り組みます。C君はさらに早く宿題が終わらせられるので５０分間は発展問題や予習などに時間を使います。

小学生は宿題がないと家庭学習はしません。高校生は宿題があろうとなかろうと家庭学習をする人はするし、しない人はしません。中学生はその中間なのです。宿題がないと家庭学習しない生徒には与えなければなりませんが、自主的にできる生徒には本来必要ありません。

そのため、強制的な部分と自主的な部分を融合させた家庭学習を展開させていくのです。

Topics



芸術の秋の到来です。

１１月３日からは町文化祭が始まり、中学生の作品が歴史文化館２階に展示されます。

９日（木）は町内音楽会で吹奏楽部が出演します。

２２日（水）は校内合唱コンクールです。いずれも会場はパレア若狭です。是非お越しください。

